

# アブラムシ対策

## アブラムシの季節

ハウスの中では、ズッキーニ、ミニトマト、ピーマン、カラーピーマン、シシトウなどの夏野菜が育っています。夏の時期、悩ましいのはアブラムシ。急激に数を増やし、株を弱らせたり、ウィルス病を伝搬したりして、最悪の場合、実ができなくなってしまうこともあります。

アブラムシは、カメムシ目(半翅目)のアブラムシ上科に属する昆虫の総称で、アリマキ(蟻牧)とも呼ばれています。繁殖力が強く、モモアカアブラムシの場合、1 ヶ月で初期の700~800 倍まで個体数が増えると言われてい



ピーマンについたアブラムシ

## アブラムシ対策

アブラムシの駆除には、発生初期の数が少ない場合は手でつぶしていますが、ハウス全体に広がって、数が増えて手ではつぶしきれない場合は、アブラムシのたくさんついている葉や枝を取り除いたり、デンブ糊のような粘着性の液体(牛乳も効果があるそうです)を希釈して散布しています。どちらの方法もその時は数が減るのですが、短時間で回復してくるので繰り返し作業が必要です。

アブラムシを捕食する昆虫として、テントウムシ類、ヒラタアブ類、ハナアブ類などが、アブラムシに寄生するものとしてアブラバチ、アブラコバチが有名です。

この中から畑でよく見かける、テントウムシ、ヒラタアブ、アブラバチについて、簡単に紹介します。

## テントウムシ

テントウムシは幼虫、成虫ともにアブラムシを餌として食べます。成虫になると多いものでは、1日ですら100匹ほどのアブラムシを食べます。ナナホシテントウや、ナミテントウなど多くの種類があり、国内では約180種が知られているそうです。



ナミテントウのサナギ



ナミテントウ



ナナホシテントウ

## ヒラタアブ

ヒラタアブの成虫はお腹の部分が黄色と黒の縞模様でハチのように見えますが、ハエ目・ハナアブ科に分類される虫で、人を刺したり噛んだりするようなことはありません。ハナアブの中でもお腹が平たいため、ヒラタアブと呼ばれています。アブラムシを食べるのは幼虫で、1日に30匹ほどのアブラムシを食べるそうです。幼虫は、半透明のウジ虫のような見た目なので、注意して保護しています。



ハウス内の花で吸蜜する、ヒメヒラタアブの仲間

## アブラバチ・アブラコバチ

ピーマンやズッキーニの葉上にあるアブラムシのコロニーで、白色や茶色、黒色に変化したアブラムシを見かけたと思ったら、次第にこの色の変化したアブラムシが増えていき、コロニーが全滅することがあります。調べてみると、この変色したアブラムシはマミー(mummy、ミイラのこと)といい、アブラバチやアブラコバチに産卵され、内部でハチがサナギになったものだそうです。日本では、アブラバチが約80種、アブラコバチは17種が知られています。一匹の雌当りの総産卵数はアブラバチは100~500、アブラコバチでは50~400といわれています。

生物農薬として成虫やマミー(サナギ)が販売されていますが、土着の昆虫をハウスの中に定着させることができれば、良いアブラムシ対策になると考えています。